

平成 29 年 6 月 17 日

森林環境教育 北九州市立足原小学校

「足立の森と仲良くなろう」～樹木観察～

足立山の麓に位置する足原小学校 6 年生 105 名と一緒に、あまり接する機会の少ない足立の森の樹木を観察しながら、葉っぱに触れたり、匂いをかいだり、鳥の声を聞いたりし、自然の大切さを思う心を育みました。

足立森林公園に集まった子どもたちは野外授業が嬉しいのか、先生に「静かにしなさい」と叱られながら整列し、やっと森林インストラクターの声に耳を傾けてくれました。

まず、出発前に本日の目的である「森の働き」の説明に入るや否や、子どもたちから「森は二酸化炭素を吸って地球の温暖化を防いでいるのでしょ！」と素晴らしい回答が発せられ、スムーズに森の樹木観察に入ることができました。



森の中では「光の差し込んでいるところは草も生え、雨が直接土にあたらないから、土砂災害が起こらないんだよね」、「この大きな根っこが土を抱えているから土が崩れないんだよね」、更に、観察道脇の樹木の名板に記載されている薬の効用にも目が届き、「薬は木から生まれたんだね」などをみんなで話しながら樹木観察をしました。各班とも元気のいい子と体の弱い子といて、まとめるのに苦労しました。

樹木観察後は本日のまとめである「森の働き」をクイズ形式で行いましたが、子どもたちからの挙手が多く、時間を 10 分程オーバーするぐらい活発な議論？がなされました。回答の中には、「森は社会をきれいにする」との嬉しい言葉もあり、楽しい樹木観察となりました。



スタッフ：赤松、久保田、西岡、平川、宮本、諸石、森元、野見山、中村